

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	新潟県	事業実施主体	新潟県、糸魚川市	地域再生計画名	翠のふるさとづくり・地域資源活性化計画
計画期間	平成 27 年度～平成 33 年度	評価責任者	糸魚川市総務部企画定住課長		

	指 標		基準値		中間目標値			最終目標値			事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価		
			基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標総数	達成数							
① 地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	間伐等による木材利用の拡大 (素材生産量の拡大)	2,151m3	H25	3,000m3	H29	3,970m3	3,500m3	H33	7,583m3	○	指標 総数	達成 数	既に目標値を達成しているが、引き続き林道整備、作業道整備による利用間伐の推進に努める。		
	指標 2	地場産材の利用拡大 (木質ペレットの生産量拡大)	400 t	H25	800 t	H29	685 t	1,000 t	H33	404 t	△			4	2	市営施設などへの木質ペレットボイラーの導入により、木質ペレットの消費拡大に努めている。地場産材全体としては利用量が増加しているため、引き続き利用拡大に努める。
	指標 3	交通障害箇所の改善	12 箇所	H26	6 箇所	H29	9 箇所	0 箇所	H33	0 箇所	○			目標値を達成し、交通障害箇所が改善されており、整備効果が発現されている。 順調に推移していたが、R 2 以降、感染症の影響で大きく減少した。感染症収束を見据え、引き続き取組を進める。		
	指標 4	観光入込客数の増加	198 万人	H25	215 万人	H28	226 万人	240 万人	H33	134 万人	△					
② 地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1	木材生産額	29,796 千円	H25	40,000 千円	H29	41,559 千円	45,000 千円	H33	57,199 千円	-			目標値を達成しており、引き続き取組を進める。		
③ 事業の進捗状況	事業名		整備量（その他事業では取組内容）				事業の進捗に状況に関する評価									
			計画	中間年度（H29）	最終実績（H33）											
特別措置を適用して行う事業	(1) 林道整備事業（整備延長）		6.2 km	2.6 km	4,737 m		林道の開設により間伐や地元共有林の維持管理がしやすくなるなど未利用林の森林整備が進んだ。未開設区間についても森林資源が豊富にあることから林道を延伸し、引き続き森林整備を推進する。林道放山線はブナ林などの広葉樹が豊富にあることから、交流人口の拡大や森林教育への活用が期待される。また林道海沢線は、国道 8 号線の迂回路機能を有することから事業の早期完了を目指したい。 今回の整備により、市民の生命や市民の財産を守るため生活路線の安全確保が図られたことや、交流人口の拡大につながった。									
	(2) 市道整備事業（新設改良延長）		1.8 km	0.7 km	1.8 km											
その他の事業	(1) 森林整備地域活動支援交付金造林推進事業		森林施業を効率的に行うための集約化、高性能林業機械を活用した利用間伐を行った。				適切な森林管理により、森林の健全な育成と森林所有者への収益還元が図られることで、手入れが行き届いていない森林の減少に繋がっている。									
	(2) ふるさとの木の家づくり事業		住宅等の建築の際に、地場産木材を利用しようとする者に対して、その費用の一部について助成を行った。				地場産材の利用拡大と、林業に係る産業の発展に繋がっている。									
	(3) 森林整備説明会の支援		森林所有者に対して、森林の重要性や整備コストの説明を行い、森林整備に対する理解と承諾を得た。				木材価格が低迷し、森林所有者の森林整備に対する負担感が増している中、集約化による低コスト化を進めるとともに、所有者の理解改善を図ってきたい。									
	(4) 防災・安全交付金事業		除雪、防雪対策を行った。				雪や災害に強い安全・安心な交通の確保が図れた。									
	(5) 社会資本整備総合交付金事業		生活幹線の道路整備を行った。				通学路の交通安全対策と生活幹線の利便性向上により、安全・安心な交通の確保が図れた。									
④ 評価方法	事業主体の関係する部署で評価検討を行い、その結果について、関係団体代表等に意見を頂くことで最終目標値の実現状況等に関する評価・検討を行った。															
⑤ 事後評価の公表方法	糸魚川市のホームページに掲載する。															
⑥ 計画全体の総合評価	道整備推進交付金を活用した林道と市道の整備が一体的に実施されており、効率的な森林施業による林業振興が図れるとともに、糸魚川ユネスコ世界ジオパークのジオサイトや観光施設へのアクセス向上による交流人口の増加に向けて効果が概ね発現されている。（交流人口は R 2 以降感染症の影響により落ち込んだが、全国的な問題であり今後回復に向けて取組む） 地場産材の利用拡大（木質ペレットの生産量拡大）は、化石燃料との競合もあり、直ぐには目標の達成には至らないが、林産物の活用による地域経済振興の効果があることから、木質ペレットボイラーや木質ペレットストーブの導入を促進し、木質ペレットの生産量の拡大を図っていく。															
⑦ 今後の方針等	間伐等による木材利用の拡大（素材生産量の拡大）と道路整備による担い手の確保や地域振興又は経済振興が期待できることから、引き続き本計画に沿って事業を推進する。一方、地場産材の利用拡大（木質ペレットの生産量拡大）の目標値は、社会情勢の変化や災害等の要因があり現計画のままでは達成が見込めない状況となっている。しかしながら、地場産材の利用拡大（木質ペレットの生産量拡大）は、化石燃料との競合はあるものの木材利用の有効施策として期待されており、引き続き事業を推進していく。なお、観光入込客数は、感染症の収束を見据えながら観光客の増加に向けて引き続き取組みを推進していく。															